取扱説明書

IEEE 802.11a/b/g 無線LANカード

SL−5000XG

Icom Inc.

ドライバーを最初にインストールしてから、
SL-5000XGを取り付けてください。

はじめに

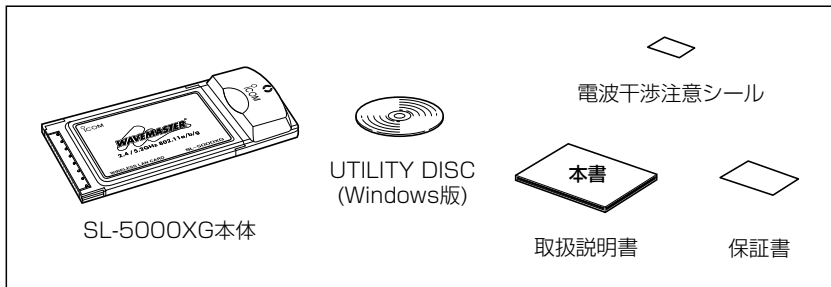
　このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
　本製品は、5.2GHz帯または2.4GHz帯の周波数を使用して、54Mbpsの通信ができる無線LANカードです。
　ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、ICOM は、アイコム株式会社の登録商標です。
WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。
Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。
Atheros Drivenロゴは、Atheros Communications, Inc. の商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

標準構成品

本製品には、次のものが同梱されています。

本製品をご使用になる前に、すべて揃っていることを確認してください。

不足しているものがございましたら、お手数ですがお買い上げの販売店または弊社営業所サービス係までお問い合わせください。

はじめに

本製品の概要について

◎5.2GHz帯(IEEE802.11a)または2.4GHz帯(IEEE802.11g)の無線LANと最大54Mbpsの速度で通信できます。

◎2.4GHz帯(IEEE802.11b)でお使いの無線LAN環境がある場合には、最大11Mbpsの速度で通信できます。

◎IEEE802.11a(54Mbps)/IEEE802.11g(54Mbps)は、地上波デジタルテレビジョン放送と同じ変調(OFDM)方式を採用していますので、マルチパスによる影響を受けにくく、高速で安定性に優れています。

◎従来の暗号化(WEP)に加え、最新の暗号化アルゴリズム(OCB AES)を搭載しています。

◎暗号化認証方式は、「シェアードキー」と「オープンシステム」の両方に対応しています。

◎Windows XPを使用時、IEEE802.1xの認証に対応しています。

◎無線ネット表示機能やWindows XP標準のワイヤレスネットワーク接続を使用すると、通信相手を簡単に切り替えできます。

◎Atheros製802.11a/b/g規格対応チップセットを搭載。

◎技術基準適合証明の取得により、無線局の免許は不要です。

動作環境について

■ パソコンは、PC/AT互換機(DOS/V)に対応します。
■ PCカードスロット(CardBus TypeⅡ)を装備するパソコンに対応します。
■ 本製品のドライバーと設定ユーティリティーは、次の日本語OSに対応します。

- Windows XP Professional
- Windows XP Home Edition
- Windows 2000 Professional
- Windows Millennium Edition
- Windows 98 Second Edition

※本書では、各対応OSに対する記載ついて下記のように総称し、表記しています。
Windows XP、Windows 2000、Windows Me、Windows 98 SE

ユーザー登録について

本製品のユーザー登録は、アイコムホームページで行っています。
インターネットから、「http://www.icom.co.jp/」にアクセスしていただき、ユーザー登録用フォームにしたがって必要事項をご記入ください。
ご登録いただけない場合、サポートサービスをご提供できませんのでご注意ください。

はじめに

無線LANの電波法についてのご注意

●電波法により、屋外で5.2GHz帯無線LANを使用することは禁止されています。

●本製品に使用している無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、特定無線設備の認証を受けています。
したがって、本製品の使用に際しては、無線局の免許は必要ありません。

●本製品を使用できるのは、日本国内に限られています。
本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造しています。
したがって、日本国外で使用された場合、本製品およびその他の機器を壊すおそれがあります。
また、その国の法令に抵触する場合があるので、使用できません。

●心臓ペースメーカーを使用している人の近くで、本製品をご使用にならないでください。
心臓ペースメーカーに電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。

●医療機器の近くで本製品を使用しないでください。
医療機器に電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。

●電子レンジの近くで本製品を使用しないでください。
電子レンジによって本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

●本製品の無線装置は、電波法に基づく認証を受けていますので、本製品の分解や改造をしないでください。

2.4GHz無線LANの電波干渉についてのご注意

2.4GHz帯の無線LANで通信するときは、次のことがらに注意してください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を必要とする無線局)が運用されています。

○この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
○万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための対処等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談ください。
○その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：アイコム株式会社　　サービス窓口 06−6792−4949
(9:00〜12:00、 13:00〜17:00)

※5.2GHz帯の無線LANでの通信は、電波干渉はありません。

はじめに

コールセンターについて

アイコムの無線LAN製品について、お客様の疑問･質問にお答えするコールセンターを土日祝日も含めて開設しています。
本製品は、弊社コールセンターのサポート対象製品です。
ご不明な点がございましたら、下記まで、お気軽にお問い合わせください。

TEL　06－6795－1770 (＊通話料はお客様負担となります。)

営業時間：平日･土日祝日　9:00～12:00、13:00～17:00
(※年末・年始、お盆休みを除きます。)

■Eメール、FAX、郵便によるお問い合わせも受け付けております。

- **Eメール**：support_center@icom.co.jp
- **F　A　X**：06－6793－3336
- **住　　所**：〒547－0004
  大阪市平野区加美鞍作 1－6－19
  アイコム(株)　コールセンター宛

2.4GHz無線LAN 2.4 OF・DS4 表記の意味について

「2.4」　：2.4 GHz帯を使用する無線設備を示す。
「OF・DS」：変調方式を示す。
「4」　：想定される干渉距離が40m以下であることを示す。
「━━━」：全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能なことを示す。

本書の表記について

本書では、次の表記規則にしたがって記述しています。

「　」表記：　オペレーションシステム(OS)、ユーティリティー、メニュー、ウィンドウ(画面)の名称を(「　」)で囲んで表記します。
［　］表記：　タブ名、アイコン名、テキストボックス名、チェックボックス名などを([　])で囲んで表記します。
〈　〉表記：　ダイアログボックスのコマンドボタンなどの名称を(〈　〉)で囲んで表記します。

はじめに

取り扱い上のご注意

◎2.4GHz帯(802.11b/g)と5.2GHz帯(802.11a)の同時通信はできません。
◎5.2GHz帯(54Mbps)は、電波法により、屋外で使用することは禁止されています。
◎パソコンおよび本製品以外の周辺機器の取り扱いは、それぞれに付属する取扱説明書に記載する内容にしたがってください。
◎本製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。
このようなときは、本製品が装着された機器を、妨害を受けている機器からできるだけ離して設置してください。
◎本製品のドライバーおよび設定ユーティリティーは、本製品以外の機器で使用しないでください。
◎本製品の改変や分解したことによる障害、および故障、誤動作、不具合、破損、データの消失、あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
◎本書の著作権およびハードウェア、ソフトウェアに関する知的財産権は、すべてアイコム株式会社に帰属します。
◎本書の内容の一部または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。
◎本書およびハードウェア、ソフトウェア、外観の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

CD(UTILITY DISC)について

本製品のドライバーと設定ユーティリティーが収録されています。
本製品に付属のCDは、PC/AT互換機でご使用ください。

ご使用になるPC/AT互換機のCDドライブに挿入すると、パソコンの**Auto Run機能**により、メニュー画面を自動的に表示します。

※メニュー画面からインストールを行う前に、ほかのアプリケーションが起動していないことを確認してください。
※メニュー画面が表示されないときは、本製品のCDに収録された「AutoRun.exe」をダブルクリックしてください。
※「UTILITY DISC」をCDドライブに挿入直後、[Shift]キーをしばらくのあいだ押し続けると、Auto Run機能をキャンセルできます。

〈ご参考に〉
CD収録の補足説明書には、本書で説明していない設定項目を詳しく説明しています。

ご使用までの流れ

本製品を無線ネットワークに接続するまでの設定や操作の手順です。
本書をご覧いただく場合、次のステップ(Step)にしたがって導入してください。
各ステップの右端に記載する数字は、本書の参照ページです。
※詳細な設定をされたい場合は、CDに収録の補足説明書(PDF形式)をご覧ください。

もくじ

もくじ

もくじ

第5章 パソコン同士で無線通信する ―――――――――――40

安全上のご注意

安全にお使いいただくために、
ご使用の前に、必ずお読みください。

▶ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
▶次の『⚠**危険**』『⚠**警告**』『⚠**注意**』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
▶お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

⚠警告	**下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。**
◎製品の分解や改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。 火災、感電、故障の原因になります。	**◎本製品のコネクター部分に線材のような金属物を入れたり、差し込んだりしないでください。** 火災、感電、故障の原因になります。

安全上のご注意

⚠警告	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎本製品を使用中は、ぬれた手で本製品に触れないでください。
感電の原因になります。

◎水や海水につけたり、ぬらさないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎本製品の取り付けや取り外し、保管するときは、赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で行ってください。
けが、感電の原因になります。

◎指定以外の付属品および別売品は、使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎万一、煙が出ている、変なにおいがする、変な音がするなどの異常がある場合は、使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに本製品を取りはずしてください。
煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社営業所サービス係に連絡してください。

安全上のご注意

⚠注意	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

◎本製品をパソコンに装着するときは、本製品の裏と表を間違えないように十分注意してください。
故障の原因になることがあります。

◎OSの起動中は、本製品を取り外したり、取り付けたりしないでください。
故障の原因になることがあります。

◎テレビやラジオの近くで使用しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

◎強い磁界や静電気の発生する場所、温度、湿度がパソコンの取扱説明書に定めた使用環境を超える、または結露するところでは使用しないでください。
故障の原因になることがあります。

◎湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所では使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になることがあります。

◎本製品の通信中に、本製品を取りはずさないでください。
故障や、データの消失または破損の原因になることがあります。

◎本製品の上に乗ったり、重い物を載せたり、挟んだりしないでください。
故障の原因になることがあります。

◎本製品を落としたり、強い衝撃を与えたり、無理にねじったりしないでください。
けが、故障の原因になることがあります。

安全上のご注意

⚠注意　下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

◎本製品を取り付けたパソコンをぐらつい た台の上や、傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因になることがあります。

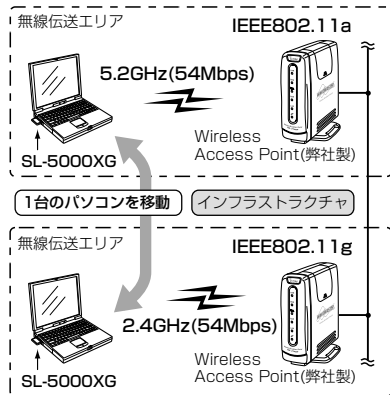
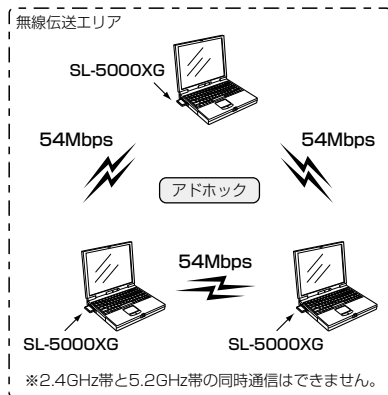
◎長時間、本製品を使用しないときは、安全のためパソコンから本製品を取りはずしてください。
発熱、発火、故障の原因になることがあります。

◎清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。
普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

1　ご使用の前に

1-1.通信形態を確認する

本製品は、ご使用の環境によって、次のどちらかの**「無線通信モード」**が選べます。
※出荷時は、**「インフラストラクチャ」**モードに設定されています。

■アクセスポイントと無線通信する「インフラストラクチャ」モード(☞4章)

■パソコン同士が無線で直接通信する「アドホック」モード(☞5章)

1-2.各部の名称と機能

「Plug and Play」に対応していますので、パソコンのOSが起動した状態で本製品を装着できます。

【CardBusコネクター】

パソコンに装備されたPCカードスロット(CardBus typeⅡ)に接続する端子です。

※金属片やゴミがコネクターに付着していないことを確認してから装着してください。

■ ランプと無線LANカードの状態

ランプ	無線LANカードの状態
同時に高速で点滅	送受信しているデータ量が多いとき
同時にゆっくり点滅	送受信しているデータ量が少ないとき
交互にゆっくり点滅	無線伝送可能なエリアを外れた場合など、通信できる無線LAN機器を探しているとき
消灯	本製品に電源が供給されていないとき

1-3.PCカードドライバーの状態を確認する

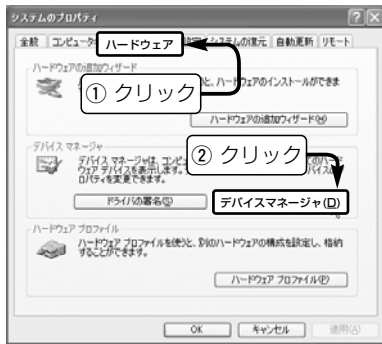
本製品のドライバーをインストールする前に、32ビットPCカードドライバーの状態を確認してください。(※手順は、Windows XPを例に説明しています。)

■確認の手順

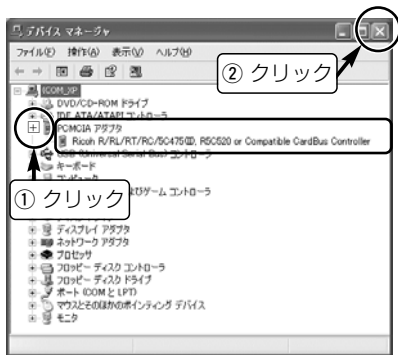
1. マウスを〈スタート〉→[マイコンピュータ](右クリック)→「プロパティ(R)」の順にクリックします。

- 「システムのプロパティ」を表示します。

2. [ハードウェア]タブ→〈デバイス マネージャ(D)〉の順にクリックします。

- 「デバイス マネージャ」を表示します。

1-3.PCカードドライバーの状態を確認する

■ 確認の手順(つづき)

3.「PCMCIA アダプタ」の ⊞をクリックして表示されるデバイスのアイコンに「!」や「×」マークが付いていないことを確認します。

4.「!」や「×」マークが付いていなければ、「デバイス マネージャ」の〈×〉をクリックして、画面を閉じます。

※「PCMCIA アダプタ」の中に表示されるデバイス名に「!」や「×」マークが付いている場合は、ご使用のパソコンに付属する取扱説明書などを参考にPCカードドライバーを再インストールしてください。

このままの状態でご使用になっても、本製品を使用できません。

5.ドライバーの新規インストール(☞2章)に進みます。

〈ご参考に〉

左の画面で、「PCMCIA アダプタ」の中に表示されるデバイス名は、ご使用のパソコンによって異なります。

1-4.使用する場所について

下記の内容について注意しないと、通信範囲や速度に影響します。

◎次のことを考慮して、ご使用ください。
- 本製品の上に物を置かないでください。
- 電波は壁やガラスを通過しますが、金属は通過しません。
  コンクリートの壁でも、金属補強材が中に埋め込まれていて、電波信号を遮断するものがあります。
- 通信範囲はオープンスペースだと最も広くなりますが、倉庫の中のように大きな金属製の壁があると、電波を反射することがあります。
- 床にはふつう、鋼製の梁がはいっており、金属製防火材が埋め込まれていることもあります。そのため多くの場合、違う階どうしでは通信できません。

◎振動や傾きが無く、落下の危険がない安定した場所でご使用ください。

◎本製品を装着したパソコンができるだけ相手方を見通せるような場所でご使用になることをおすすめします。

◎「インフラストラクチャ」モードで使用するとき、無線端末の収容台数は、弊社製無線アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。

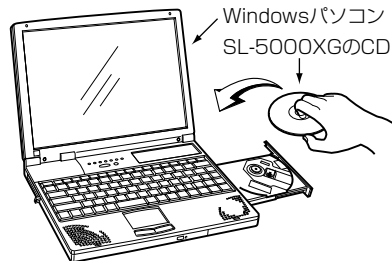
◎「アドホック」モードで使用するとき、同じグループに最大40～50台収容できますが、煩雑に通信をするような環境では、接続台数を10台以下にすることをお勧めします。

◎本製品の最大伝送距離は、通信速度(11Mbps/54Mbps)によって異なります。
定格(☞6-7章)でご確認ください。

2-1.Windows XPの場合

※本製品を使って通信するすべてのパソコンにインストールしてください。

■インストールの手順

1.付属のCDをセットする

※パソコンは、**管理者権限でログオン**してください。

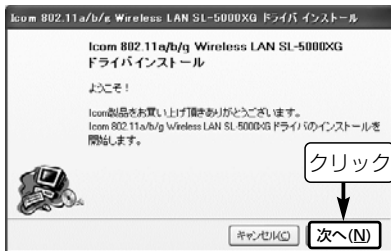
2.メニュー画面が表示されます。

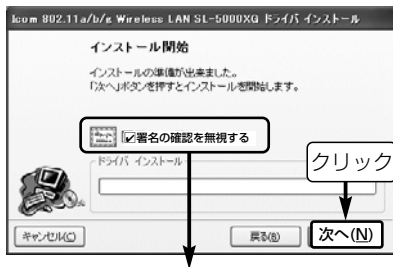
※表示しないときは、CDに収録された「AutoRun.exe」をダブルクリックします。

■再インストールするときは、インストール手順1.～3.の操作をすると表示されるアンインストールウィザードにしたがって操作してください。
※再インストールのときは、PCカードスロットから本製品を取り外してください。

2-1.Windows XPの場合

■インストールの手順(つづき)

3.インストールを始めます。

4.〈次へ(N)〉をクリックします。

●インストールを開始します。

[ドライバの署名]確認が表示されている場合でも、そのまま〈次へ(N)〉をクリックしてください。

■インストールの手順(つづき)

5.〈はい(Y)〉をクリックします。

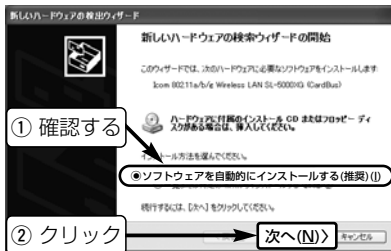
6.〈完了(F)〉をクリックします。

7.SL-5000XGを取り付けます。

2-1.Windows XPの場合

■インストールの手順(つづき)

8.SL-5000XGの装着を認識すると、次の内容を表示します。

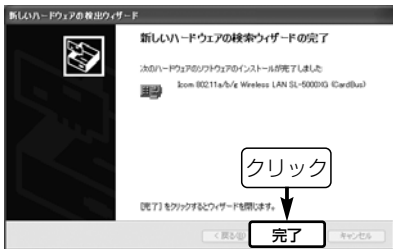
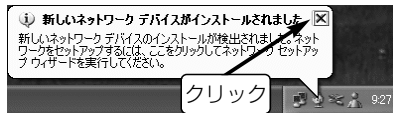
9.インストール方法を設定します。

10.画面が終了するまで、そのままの状態で待ちます。

〈ご参考に〉

手順8.で画面を表示しないときは、「PCカードドライバーの状態を確認する」(☞1-3章)を確認してください。

■インストールの手順(つづき)

11.〈完了〉をクリックします。

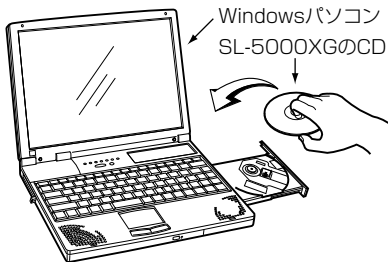
●インストールは完了です。

12.画面上で、☒をクリックします。

Windows XPのネットワークセットアップウィザードの実行は、キャンセルしてください。

13.設定ユーティリティーの新規インストール(☞3-1章)に進みます。

〈ご参考に〉

SL-5000XGのドライバーをインストールしたパソコンは、次回使用時から本製品をそのパソコンに装着するだけで使用できます。

2-2.Windows Me/2000の場合

※本製品を使って通信するすべてのパソコンにインストールしてください。

■インストールの手順

1.付属のCDをセットする

※Windows 2000の場合は、**管理者権限でログオン**してください。

2.メニュー画面が表示されます。

※表示しないときは、CDに収録された「AutoRun.exe」をダブルクリックします。

■再インストールするときは、インストール手順1.〜3.の操作をすると表示されるアンインストールウィザードにしたがって操作してください。
※再インストールのときは、PCカードスロットから本製品を取り外してください。

■インストールの手順(つづき)

3.インストールを始めます。

4.〈次へ(N)〉をクリックします。

●インストールを開始します。

Windows 2000の場合、[ドライバの署名]確認が表示されている場合でも、そのまま〈次へ(N)〉をクリックしてください。

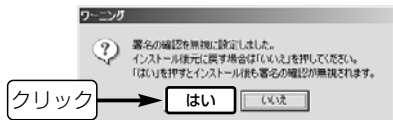
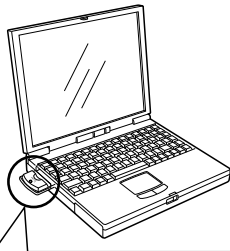
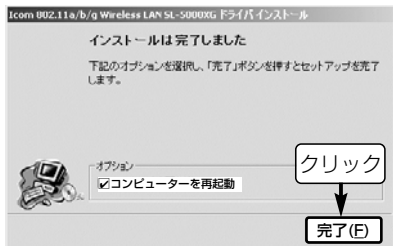
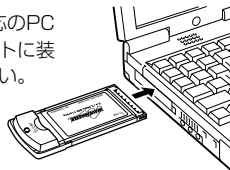
※Windows Meのかたは、手順6.に進みます。

2

2-2.Windows Me/2000の場合(■ インストールの手順)つづき

5.Windows 2000のかたは、〈はい〉をクリックします。

6.〈完了(F)〉をクリックします。

7.SL-5000XGを取り付けます。

※装着方法は、お使いのパソコンによって異なることがありますので、ご注意ください。

■インストールの手順(つづき)

8.SL-5000XGの装着を認識すると、次の内容を表示します。

- インストールは完了です。

新しいハードウェアが見つかりました

Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5000XG (CardBus)

新しいハードウェアに必要なソフトウェアをインストールしています。

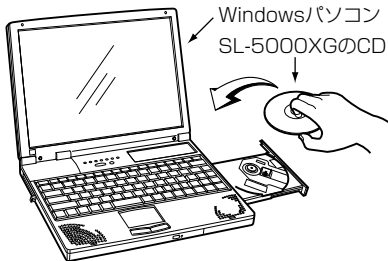
9.設定ユーティリティーの新規インストール(☞3-1章)に進みます。

〈ご参考に〉

◎手順8.で画面を表示しないときは、「PCカードドライバーの状態を確認する」(☞1-3章)を確認してください。

◎SL-5000XGのドライバーをインストールしたパソコンは、次回使用時から本製品をそのパソコンに装着するだけで使用できます。

2-3.Windows 98 SEの場合

※本製品を使って通信するすべてのパソコンにインストールしてください。

■インストールの手順

1.付属のCDをセットする

2.メニュー画面が表示されます。

※表示しないときは、CDに収録された「AutoRun.exe」をダブルクリックします。

■再インストールするときは、インストール手順1.〜3.の操作をすると表示されるアンインストールウィザードにしたがって操作してください。
※再インストールのときは、PCカードスロットから本製品を取り外してください。

■インストールの手順(つづき)

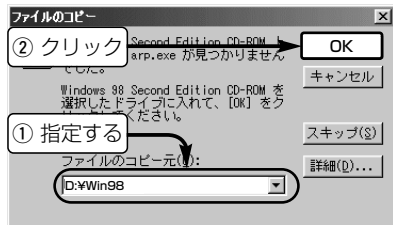
3.インストールを始めます。

4.〈次へ(N)〉をクリックします。

●インストールを開始します。

5.Windows 98 Second Edition のCD-ROMと入れ替えます。

※手順5.の画面が表示されないときは、手順7.に進みます。

6.ファイルのコピー元を指定します。

コピー元の指定のしかた☞次ページ

2

2-3.Windows 98 SEの場合(■ インストールの手順)つづき

7.〈完了(F)〉をクリックします。

8.SL-5000XGを取り付けます。

〈ファイルのコピー元の指定について〉

CDの起動ドライブ名[D:](例)は、お使いのパソコンによって異なることがあります。
手順6.の画面が表示されたときは、フォルダー名「Win98」をドライブ名[D:](例)に続けて、[D:¥Win98]と指定してください。

■インストールの手順(つづき)

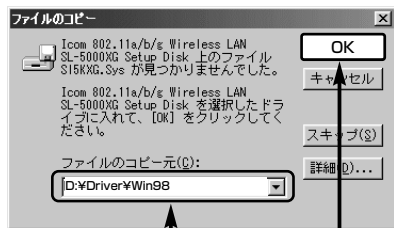
9.SL-5000XGの装着を認識すると、次の内容を表示します。

※画面を表示しないときは、「PCカードドライバーの状態を確認する」(☞1-3章)を確認してください。

10.付属のCDと入れ替えます。

※手順5.の画面が表示されなかったかたは、CDを入れ替えずに、〈OK〉をクリックします。

※手順10.の画面が表示されないときは、手順14.に進みます。

11.ファイルのコピー元を指定します。

〈ファイルのコピー元の指定について〉

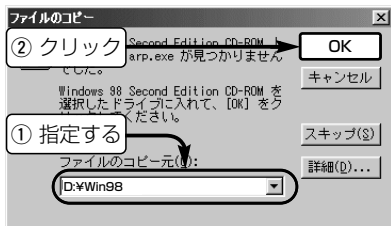
CDの起動ドライブ名[D:](例)は、お使いのパソコンによって異なることがあります。
手順11.の画面が表示されたときは、フォルダー名「Driver¥Win98」をドライブ名[D:](例)に続けて、[D:¥Driver¥Win98]と指定してください。

2

2-3.Windows 98 SEの場合

■インストールの手順(つづき)

12.Windows 98 Second Edition のCD-ROMと入れ替えます。

13.ファイルのコピー元を指定します。

14.パソコンからCDを取り出します。

15.パソコンを再起動すると、インストールは完了です。

※再起動後、「ネットワークのパスワード入力」画面が表示されたときは、[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]をテキストボックスに入力してから、〈OK〉をクリックします。

16.設定ユーティリティーの新規インストール(☞3-1章)に進みます。

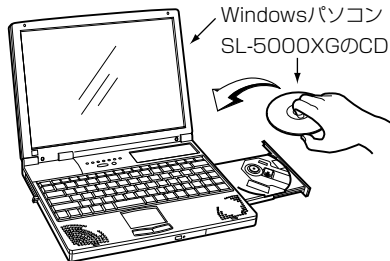
〈ご参考に〉

◎SL-5000XGのドライバーをインストールしたパソコンは、次回使用時から本製品をそのパソコンに装着するだけで使用できます。

3-1.設定ユーティリティーの新規インストール

無線通信モード(☞1-1章)やセキュリティーの設定などを行うソフトウェアです。
※本製品を使って通信するすべてのパソコンにインストールしてください。

■インストールの手順

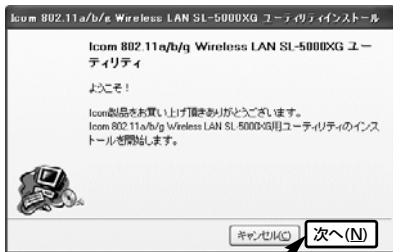
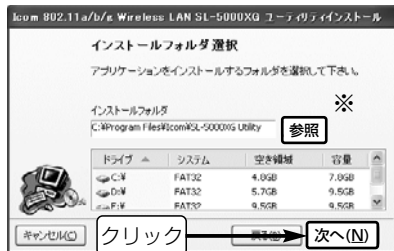
1.付属のCDをセットする

※Windows XP、Windows 2000の場合は、
管理者権限でログオンしてください。

2.メニュー画面が表示されます。

■**再インストールするときは、**インストール手順1.〜3.の操作をすると表示されるアンインストールウィザードにしたがって操作してください。
※設定ユーティリティーを起動しているときは、終了後に再インストールしてください。

3-1.設定ユーティリティーの新規インストール

■インストールの手順(つづき)

3.インストールを始めます。

4.インストール先のフォルダーを選択します。

画面に表示されたフォルダー(C:¥Program Files)を変更しない場合は、そのまま〈次へ(N)〉をクリックします。

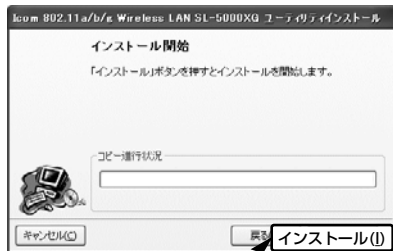
※インストール先を変更するときは、〈参照〉をクリックして指定します。

■インストールの手順(つづき)

5.フォルダーを作成します。

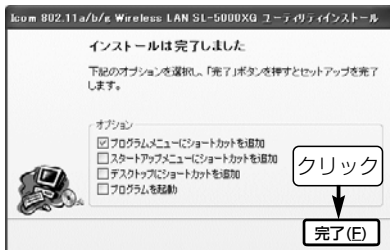
手順4.で指定した先(C:¥Program Files)に[Icom]フォルダーを自動作成することを許可する場合は、〈OK〉をクリックします。

6.〈インストール(I)〉をクリックします。

- インストールを開始します。

3-1.設定ユーティリティーの新規インストール

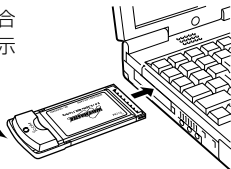
■インストールの手順(つづき)

7.〈完了(F)〉をクリックします。

●インストールは完了です。

3-2.起動と終了のしかた

インストール(☞3-1章)された設定ユーティリティーの起動と終了のしかたを説明します。

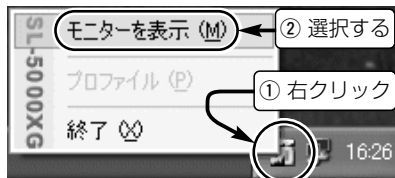
■起動のしかた

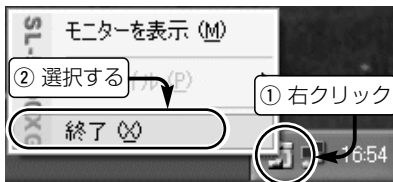
1.SL-5000XGを取り付けます。

2.プログラムメニューから[SL-5000XG Utility]を選択します。

3.アイコンの表示を確認します。

※アイコンの意味については、26ページをご覧ください。

4.モニター画面を表示します。

3

3-2.起動と終了のしかた(つづき)

■終了のしかた

カーソルを表示されたアイコンの上に移動して、右クリックすると表示されるメニューから「終了(X)」を選択します。

■Windows XPでご使用のかたへ

出荷時は、Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続(以後、ワイヤレスネットワーク接続と表記)による設定が優先されています。
無線LANの標準的な設定は、ワイヤレスネットワーク接続から設定できますが、暗号化アルゴリズム(OCB AES)など最新の機能を使用するときは、本製品の設定ユーティリティーが必要です。
本製品の設定ユーティリティーで設定を変更する場合は、「設定ユーティリティーをWindows XPで使うには」(☞3-3章)にしたがって、設定を変更してください。
設定ユーティリティーで通信をモニターするだけであれば、設定の変更は必要なく、ワイヤレスネットワーク接続と併用して使用できます。

3-2.起動と終了のしかた(つづき)

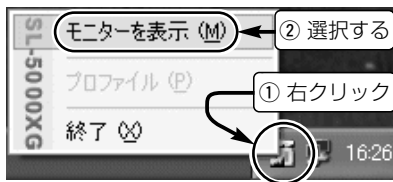
■ タスクバーに表示されるアイコンの意味

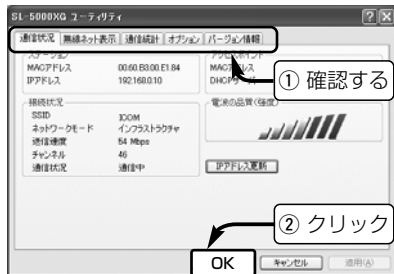
	通信中	無線ネットワークに正常に接続された状態 ※電波強度を4段階で表示し、「アドホック」のときは、電波強度は「4」のままで変化しません。
	スキャン中	無線通信モードが「インフラストラクチャ」のとき表示されます。 本製品と接続するパソコンが、通信できる無線アクセスポイントの無線伝送エリアを外れた状態か、無線アクセスポイントを探している状態
	アダプタが見つかりません	本製品がパソコンに装着されていない、または本製品の接続を認識していない状態
	アダプタは正しく動作していません	本製品が接続されているが、本製品のドライバーが正しくインストールされないなどで装着を認識しない状態

3-3.設定ユーティリティーをWindows XPで使うには

Windows XPをご使用の場合で、設定ユーティリティーからOCB AES(暗号化)など、詳細設定をする場合は、次の手順でワイヤレスネットワーク接続の設定を変更してください。なお、設定を変更しない場合でも、設定ユーティリティーで通信状況のモニター、およびWindows XP標準のワイヤレスネットワーク接続から本製品の基本設定を変更できます。

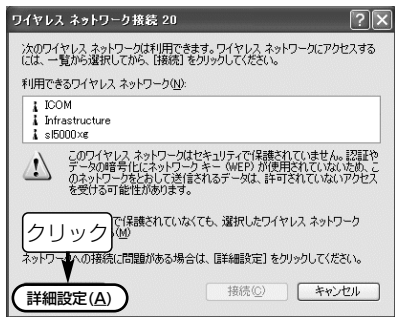
■設定変更の手順

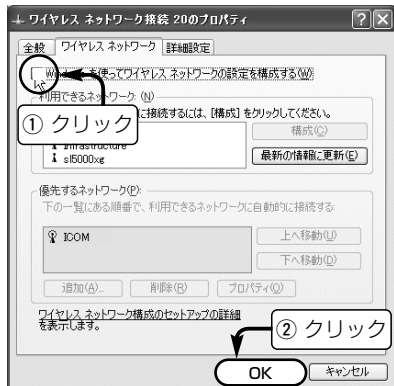
1.モニター画面を起動します。

「モニターを表示(M)」を選択できないときは、SL-5000XGを取り付けてから、設定ユーティリティーを起動しなおしてください。

2.タブの数を確認します。

タブ(モニター画面)が5つ表示されている場合は、手順3.で設定を変更後、設定ユーティリティーを起動しなおしてください。

■設定変更の手順(つづき)

3.[アイコン]をクリックします。

4.〈詳細設定(A)...〉をクリックします。

5.チェックボックスをクリックして、チェックマークを外します。

6.〈OK〉をクリックします。

ワイヤレス ネットワーク接続 20のプロパティ

全般 | ワイヤレス ネットワーク | 詳細設定

Windows を使ってワイヤレス ネットワークの設定を構成する(W)

利用できるネットワーク(N)

に接続するには、[構成] をクリックしてください。

① クリック

Infrastructure
sl5000xg

構成(C)
最新の情報に更新(E)

優先するネットワーク(P):

下の一覧にある順番で、利用できるネットワークに自動的に接続する:

ICOM

上へ移動(U)
下へ移動(D)

追加(A)... 削除(R) プロパティ(O)

ワイヤレス ネットワーク構成のセットアップの詳細を表示します。

② クリック

OK キャンセル

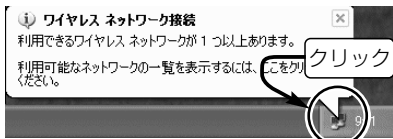
※設定ユーティリティーを起動しなおすと、設定できます。

3

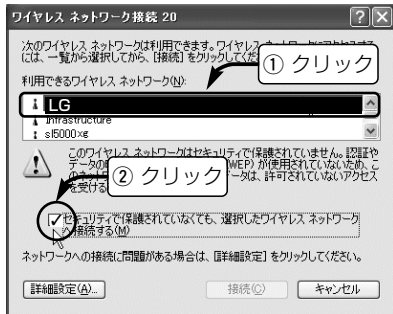
4-1.Windows XPで通信をする

Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続(以後、ワイヤレスネットワーク接続と表記)を使用して、無線アクセスポイントと通信する手順について説明します。

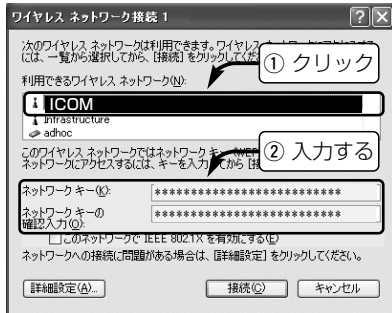
■接続の手順

1.[ネットワークアイコン]をクリックします。

※本製品が無線アクセスポイントを見つけられない場合は、上記のメッセージは表示されず、「×」マークを[ネットワーク]アイコンに表示します。
状況によっては、しばらくしてから無線アクセスポイントを見つける場合があります。

2.無線アクセスポイントを選択します。

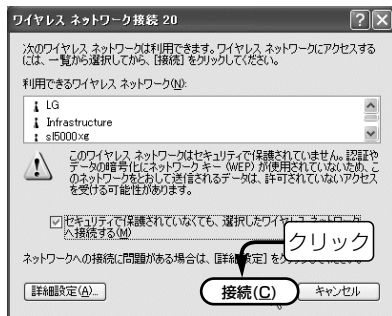
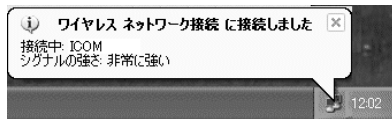
【暗号化されていないネットワークの場合】

※手順3.(右ページ)の操作は、「暗号化されていないネットワークの場合」の画面を使用しています。

■ 接続の手順(つづき)

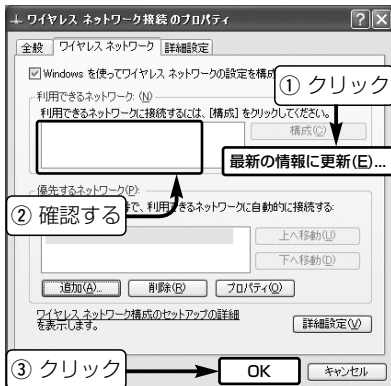
【暗号化されたネットワークの場合】

暗号化鍵(キー)を入力します。
入力によって暗号化方式を自動判別します。

暗号化方式がWEP RC4 64(40)の場合
16進数(HEX)：10桁
ASCII文字　：5文字(半角)

暗号化方式がWEP RC4 128(104)の場合
16進数(HEX)：26桁
ASCII文字　：13文字(半角)

3.〈接続(C)〉をクリックします。

4.接続すると画面を表示します。

4-1.Windows XPで通信をする(つづき)

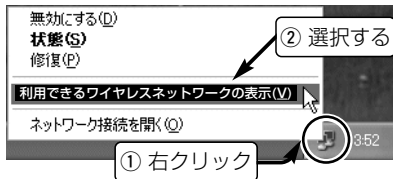
■[利用できるワイヤレスネットワーク(N):]欄に何も表示されないときは?

下記の操作で､元の画面から接続できます。

上記の画面は、手順2.の画面(☞P29)で、〈詳細設定(A)...〉をクリックすると表示できます。

■次回起動時の接続について

前回選択した無線アクセスポイント(例：LG)を優先して接続します。

■アクセスポイントを切り替えるには

別のアクセスポイントに接続を切り替えるときは､下記の操作で表示される画面から、アクセスポイント名(例：sl5000xg)を指定して、接続操作をやりなおします。
次回起動時、接続可能な無線アクセスポイントを検索(例：sl5000xg→LGの順番)して、電波状況の良い方へ自動的に接続します。

■ アクセスポイントの設定追加について

本製品の起動時、自動検索される無線アクセスポイントの設定を追加する手順です。

1. タスクバーの[ネットワーク]アイコンを右クリックして表示されるメニューから、[利用できるワイヤレスネットワークの表示(V)]をクリックします。

2. 〈詳細設定(A)〉をクリックします。

ワイヤレス ネットワーク接続 20

次のワイヤレス ネットワークは利用できます。ワイヤレス ネットワークにアクセスするには、一覧から選択してから、[接続] をクリックしてください。

利用できるワイヤレス ネットワーク(N):

ICOM
Infrastructure
sl5000xg

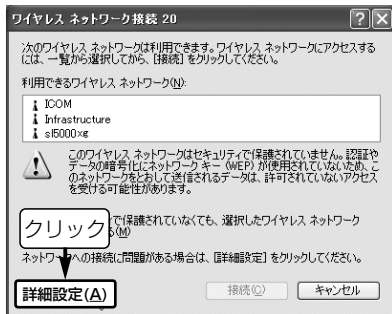
このワイヤレス ネットワークはセキュリティで保護されていません。認証やデータの暗号化にネットワーク キー (WEP) が使用されていないため、このネットワークをとおして送信されるデータは、許可されていないアクセスを受ける可能性があります。

クリック

ネットワークへの接続に問題がある場合は、[詳細設定] をクリックしてください。

詳細設定(A)　接続(C)　キャンセル

3. 〈追加(A)...〉をクリックします。

4

4-1.Windows XPで通信をする

■アクセスポイントの設定追加について(つづき)

4.無線アクセスポイントの[SSID]を[ネットワーク名(SSID)(N):]欄に半角で入力します。　(入力例：SR21VoIP)
※[SSID]は、[ESS ID]と表記されている機種もあります。

5.暗号化する場合は、無線アクセスポイントと同じ鍵(キー)を設定します。
下記の画面の操作で、鍵を[ネットワークキー(K)]に入力後、〈OK〉をクリックします。

■アクセスポイントの設定追加について(つづき)

6.[優先するネットワーク(P)]に追加されたことを確認して、〈OK〉をクリックすると完了です。

【設定のご参考に】

※無線チャンネルは、自動的に無線アクセスポイントのチャンネルになります。

※手順6.の画面で優先するネットワーク(P)]に追加された無線アクセスポイント名のアイコンに表示される「×」印は、検索できないとき表示され、次回起動時など追加した無線アクセスポイントが見つかると「×」印は消えます。

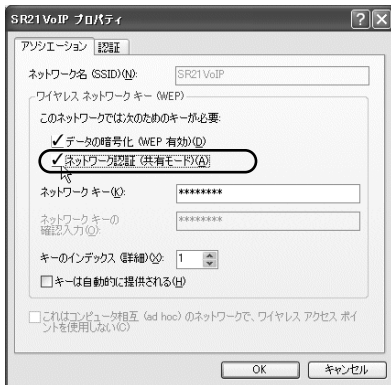
※Windows XP(Service Pack1を除く)の[キーのインデックス(詳細)(X)](手順5.の画面)を選択できる範囲は、「0(1)〜3(4)」です。
カッコ( )内は、本製品の設定ユーティリティーの[キー ID]で設定可能な範囲で、[キーのインデックス(詳細)(X)]と[キー ID]は同じ意味として機能します。例えば、[キー ID]が「1」のときは、[キーのインデックス(詳細)(X)]を「0」に設定すると同じ設定値として認識します。

4

4-2.認証モードについて

暗号化鍵(キー)を使用する場合、通信相手間で[認証モード]が異なると通信できません。

WEP(RC4)の暗号化を使用して「シェアードキー」認証する場合は、[ネットワーク認証(共有モード)(A)]にチェックマークを入れます。

※弊社製無線アクセスポイントは、従来より「オープンシステム」認証を採用しており、一部機種は、自動認識に対応しています。

【シェアードキー(Shared Key)認証】

暗号化を使用して無線アクセスポイントと通信する場合、設定された暗号化鍵(キー)を利用して互いが共通の暗号化鍵を持っていることを確認する方式です。

【オープンシステム(Open System)認証】

暗号化を使用して無線アクセスポイントと通信する場合、認証を行わない方式です。

【設定ユーティリティーを使うと?】

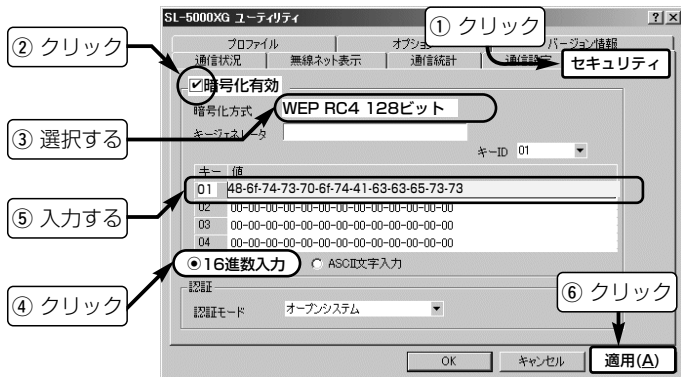
設定ユーティリティーで設定をすると、認証モードを「オート」に設定できます。
「OCB AES(128bit)」で暗号化できます。

4-3.Windows 2000/Me/98 SEで通信をする

本製品の設定ユーティリティーを使用して無線アクセスポイントと通信する手順について説明します。(Windows XPでご使用の場合は、3-3章で設定を変更してください。)

■接続の手順

1.設定ユーティリティーの「モニター表示」画面(☞3-2章)を表示させます。

2.通信が暗号化が設定されている場合は、無線アクセスポイントと同じ鍵(キー)を入力します。(※下記は、設定例です。)

4-3.Windows 2000/Me/98 SEで通信をする

■接続の手順(つづき)

3.[通信状況]タブをクリックして、無線アクセスポイントとの通信を確認します。

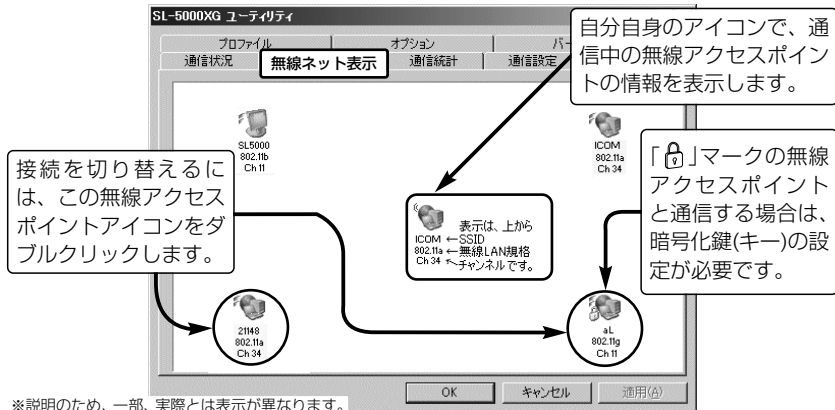
4-3.Windows 2000/Me/98 SEで通信をする(つづき)

■ 次回起動時の接続について

複数の無線アクセスポイントがあると、自動的に通信環境の良い方に接続されます。

■ 無線アクセスポイントを切り替えるには

[無線ネット表示]タブに表示された別の無線アクセスポイント(例：21148)をダブルクリックします。(※暗号化キーが異なる無線アクセスポイントには切り替えできません。)

※説明のため、一部、実際とは表示が異なります。

4-3.Windows 2000/Me/98 SEで通信をする(つづき)

■起動時の優先接続設定について

本製品に設定された[SSID]と同じ無線アクセスポイントに接続を優先します。

1.[通信設定]タブをクリックして、[SSID]を半角で入力します。　　(例：SR-21VoIP)

2.暗号化が必要な場合は、[セキュリティ]タブで暗号化を設定しておきます。

3.〈適用(A)〉または〈OK〉をクリックします。

5-1.IPアドレスを設定する

パソコン同士が無線通信を行うには、固定IPアドレスをパソコンに割り当ててから、本製品の設定を行い通信する必要があります。

※本書では、Windows XPを例に説明しています。(☞そのほかのOSは補足説明書を参照)

■ IPアドレスの設定について

IPアドレスを設定するときは、下記のことを注意してください。

- 同一ネットワークグループ内におけるすべてのパソコンのIPアドレスは、重複しないように設定してください。
- 同一ネットワークグループ内におけるすべてのパソコンのサブネットマスクは、同じ値を設定してください。
- 小規模なネットワーク(253台まで)でご使用になる場合は、プライベートアドレスとして192.168.0.0〜192.168.255.255を使用します。
  なお、192.168.×××.0(ネットワークアドレス)と192.168.×××.255(ブロードキャストアドレス)は、特別なアドレスとして扱われますので、パソコンには割り当てないでください。(×××：0〜255)

3台のパソコンで無線LANを構成するときは、以下のようになります。

パソコンA：192.168.0.10(サブネットマスク：255.255.255.0)
パソコンB：192.168.0.11(サブネットマスク：255.255.255.0)
パソコンC：192.168.0.12(サブネットマスク：255.255.255.0)

5-1.IPアドレスを設定する(つづき)

■設定の手順

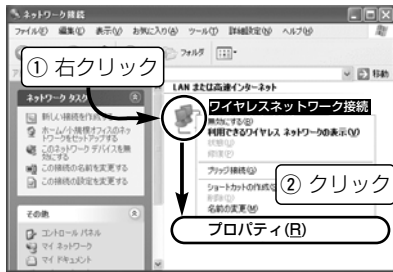
1.設定に使用するパソコンを起動します。
●「ログオン」画面を表示します。

2.管理者のユーザー名でログオンします。

3.パソコンが起動したら、マウスを〈スタート〉→[コントロールパネル(C)]の順に操作します。

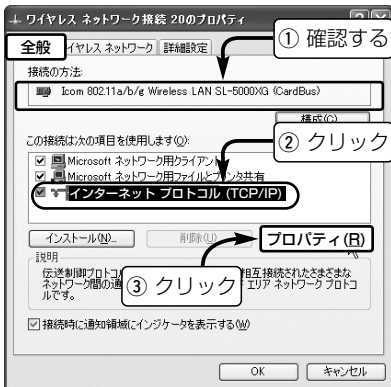
4.コントロールパネルから、[ネットワークとインターネット接続]をクリックします。

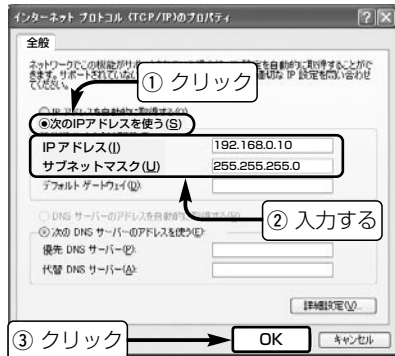
5.[ネットワーク接続]アイコンをクリックします。

6.本製品の名称が表示された[ワイヤレスネットワーク接続]アイコンを右クリックして、表示されるメニューから[プロパティ(R)]をクリックします。

■設定の手順(つづき)

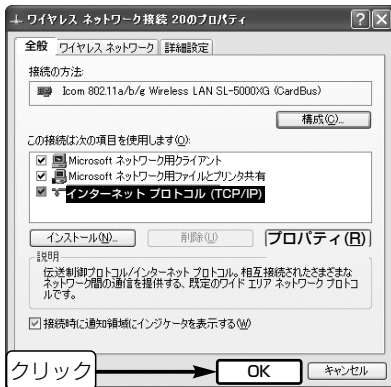
7.本製品の名称が表示されていることを確認します。

8.「インターネットプロトコル(TCP/IP)」をクリックします。

9.〈プロパティ(R)〉をクリックします。

10.[次のIPアドレスを使う(S)]のラジオボタンをクリックして、チェックマークを入れます。

11.[IPアドレス(I)]と[サブネットマスク(U)]を入力(☞P40を参照)して、〈OK〉をクリックします。

5-1.IPアドレスを設定する(つづき)

■設定の手順(つづき)

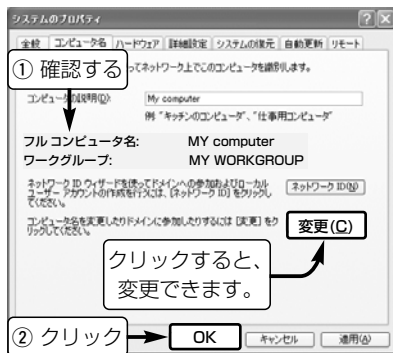
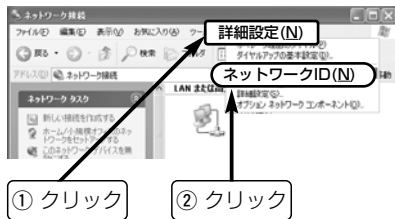
12.手順9.の画面が表示されますので、〈OK〉をクリックします。

5-2.「フル コンピュータ名」と「ワークグループ」の設定

※本書では、Windows XPを例に説明しています。(☞そのほかのOSは補足説明書を参照)

■設定の手順

1. 本書41ページの手順で、「ネットワーク接続」画面を表示させます。
2. 「詳細設定(N)」から[ネットワークID(N)]をクリックします。

3. [フル コンピュータ名:]と[ワークグループ:]の変更が必要な場合は、〈変更〉をクリックすると変更できます。
※入力は、半角英数字で行います。

5

5-2.「フル コンピュータ名」と「ワークグループ」の設定(つづき)

■設定の手順

【フル コンピュータ名：】

ネットワーク上で、パソコンごとに識別用の名前を入力します。
なお、同じネットワークグループのパソコンと重複しないように設定してください。

【ワークグループ：】

同じ名前を設定したパソコンが、ネットワーク上で同じネットワークグループとして認識されます。
同じグループ名を通信の対象となるすべてのパソコンに設定してください。

【コンピュータの説明(D)：】

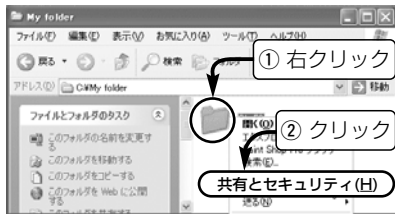
必要があれば、任意に入力します。

5-3.「共有フォルダー」の設定

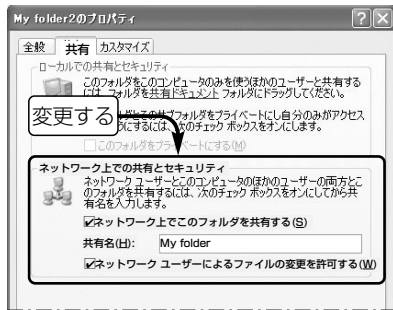
自分のパソコンのドライブまたはフォルダーを相手先に公開するには共有フォルダーの設定が必要です。
※本書では、Windows XPを例に説明しています。(☞そのほかのOSは補足説明書を参照)

■設定の手順

1.[マイコンピュータ]アイコンなどから、共有したいフォルダーのあるウィンドウを開きます。

2.共有したいフォルダー上にカーソルを移動して右クリックします。
表示されたメニューから[共有とセキュリティ(H)...]をクリックします。

3.[ネットワーク上での共有とセキュリティ]の設定内容を変更します。

- 共有設定したフォルダーには、共有を示すアイコンが表示されます。

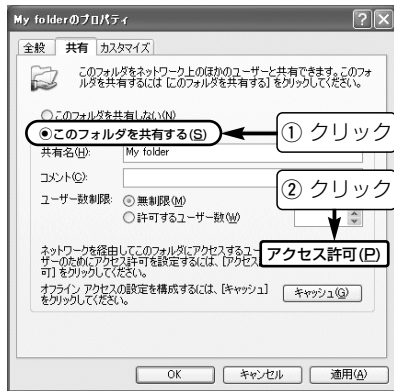
5

5-3.「共有フォルダー」の設定

■設定の手順(つづき)

4.手順3.の画面で〈OK〉をクリックします。

〈ご参考に〉

手順3.の画面は、Windows XPが「簡易共有」に設定されている場合の画面です。
共有するフォルダーのアクセス許可を特定のユーザーだけに設定できません。

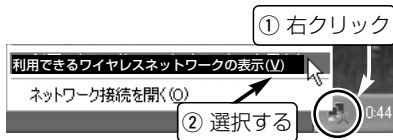
共有を特定のユーザーに限定する場合は、「フォルダ オプション」の[表示]タブで、「簡易ファイルの共有を使用する(推奨)」のチェックマークを外すと可能になります。
下記は、そのときの設定画面です。

5-4.Windows XPで通信をする

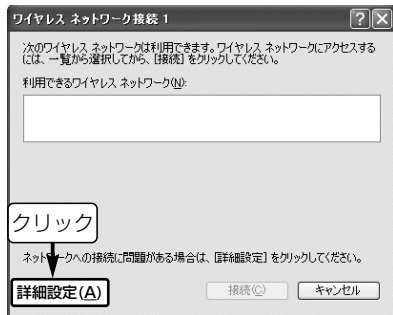
Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続(以後、ワイヤレスネットワーク接続と表記)を使用して、相手のパソコンと直接通信する手順について説明します。

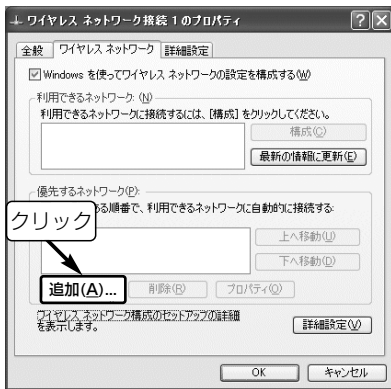
■本製品の設定

1.本製品を装着すると、Windows XPのタスクバーに[ネットワーク]アイコンを表示します。

2.[ネットワーク]アイコンを右クリックして表示されるメニューから、[利用できるワイヤレスネットワークの表示(V)]をクリックします。

① 右クリック
利用できるワイヤレスネットワークの表示(V)
ネットワーク接続を開く(O)
② 選択する

※出荷時は、通信できる無線アクセスポイントを自動検索します。
検索できない環境では、「×」マークを[ネットワーク]アイコンに表示します。

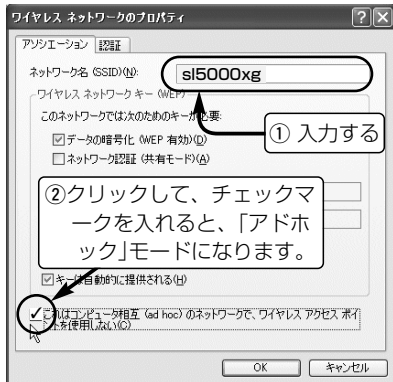
3.〈詳細設定(A)〉をクリックします。

5-4.Windows XPで通信をする(■本製品の設定)つづき

4.〈追加(A)...〉をクリックします。

〈ご参考に〉

※[SSID]は、[ESS ID]と表記されている機種もあります。

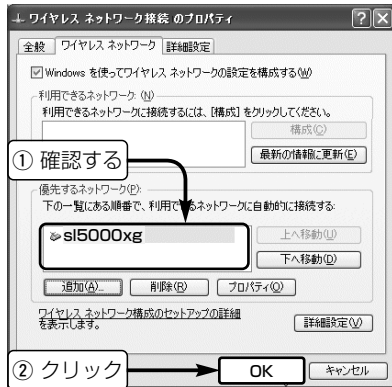
5.相手と同じ[SSID]を[ネットワーク名(SSID)(N):]に半角で入力します。

(入力例：sl5000xg)

6.無線通信モードを「アドホック」に設定します。

■本製品の設定(つづき)

7.暗号化する場合は、通信相手と同じ鍵(キー)を設定します。
下記の画面の操作で、鍵を[ネットワークキー(K)]に入力後、〈OK〉をクリックします。

8.[優先するネットワーク(P)]に追加されたことを確認して、〈OK〉をクリックすると完了です。

5

5-4.Windows XPで通信をする(■ 本製品の設定)つづき

【設定のご参考に】

※無線チャンネルは、設定不要です。
自動的に相手のチャンネルになります。

※「アドホック」モードでは、[ネットワーク認証]を設定しても無効になります。

※手順6.の画面で優先するネットワーク(P)]に追加された無線アクセスポイント名のアイコンに表示される「×」印は、検索できないとき表示され、次回起動時など追加した通信相手が見つかると「×」印は消えます。

※**Windows XP(Service Pack1を除く)の[キーのインデックス(詳細)(X)](手順5.の画面)を選択できる範囲は、「0(1)〜3(4)」です。**
カッコ( )内は、本製品の設定ユーティリティーの[キー ID]で設定可能な範囲で、[キーのインデックス(詳細)(X)]と[キー ID]は同じ意味として機能します。
例えば、[キー ID]が「1」のときは、[キーのインデックス(詳細)(X)]を「0」に設定すると同じ設定値として認識します。

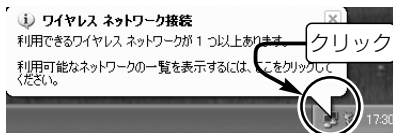
【設定ユーティリティーを使うと?】

設定ユーティリティーで暗号化を設定すると、「OCB AES」の方式で暗号化できます。

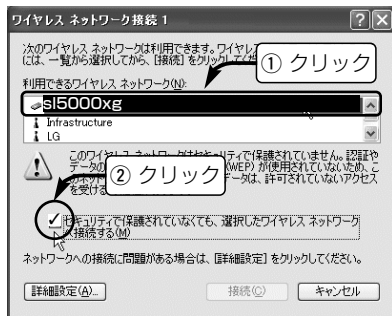
「アドホック」モードのときは、設定ユーティリティーの[セキュリティ]タブで[認証モード]を設定しても無効です。

5-4.Windows XPで通信をする(つづき)

■ 接続の手順

1.[ネットワークアイコン]をクリックします。

※[ネットワーク]アイコンだけが表示される場合は、無線伝送エリア内に通信相手がいない通信待ちの状態です。

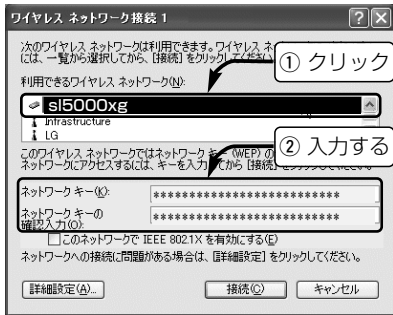
2.相手のパソコン名を選択します。

【暗号化されていないネットワークの場合】

【暗号化されたネットワークの場合】

☞次ページ

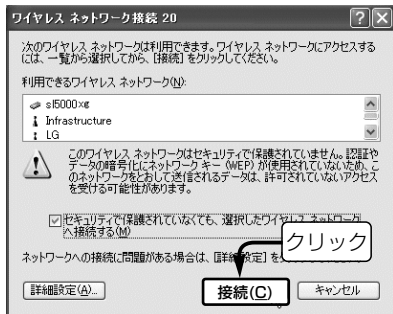
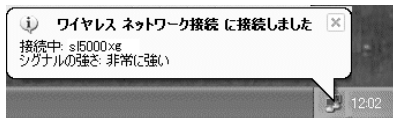
※上記の操作は、「暗号化されていないネットワークの場合」の画面を使用しています。

5-4.Windows XPで通信をする■ 接続の手順(つづき)

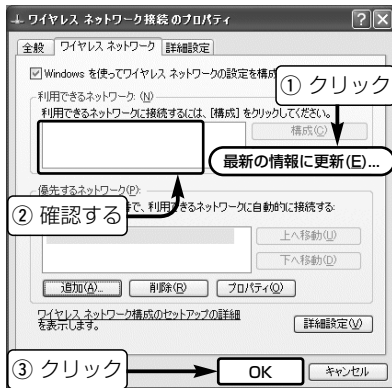
【暗号化されたネットワークの場合】

暗号化鍵(キー)を入力します。
入力によって暗号化方式を自動判別します。

暗号化方式がWEP RC4 64(40)の場合
16進数(HEX)：10桁
ASCII文字　：5文字(半角)

暗号化方式がWEP RC4 128(104)の場合
16進数(HEX)：26桁
ASCII文字　：13文字(半角)

3.〈接続(C)〉をクリックします。

4.接続すると画面を表示します。

5-4.Windows XPで通信をする(つづき)

■[利用できるワイヤレスネットワーク(N):]欄に何も表示されないときは？

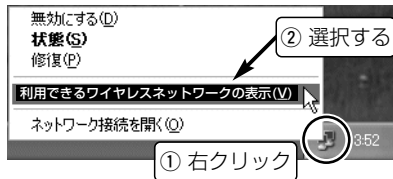
下記の操作で､元の画面から接続できます。

上記の画面は、手順2.の画面(☞P52)で、〈詳細設定(A)...〉をクリックすると表示できます。

■次回起動時の接続について

前回選択したパソコン(例：sl5000xg)を優先して接続します。

■通信相手を切り替えるには

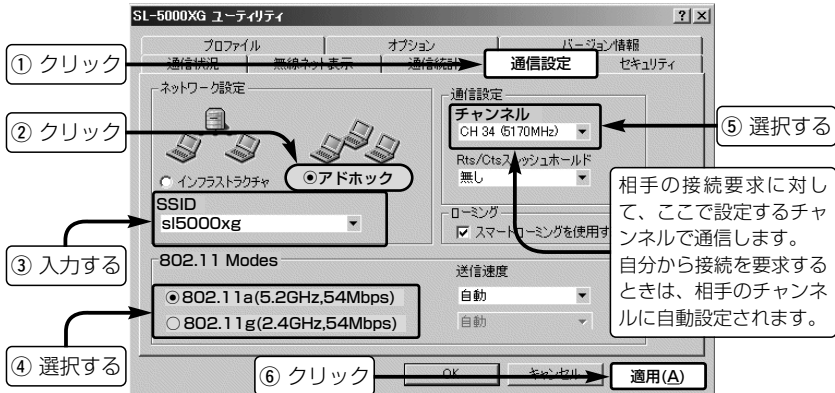
別のパソコンに接続を切り替えるときは、下記の操作で表示される画面から、パソコン名(例：ICOM)を指定して、接続操作をやりなおします。

次回起動時、接続可能なパソコンを検索(例：ICOM→sl5000xgの順番)して、電波状況の良い方へ自動的に接続します。

5-5.Windows 2000/Me/98 SEで通信をする

本製品の設定ユーティリティーを使用して、相手のパソコンと直接通信する手順について説明します。(Windows XPでご使用の場合は、3-3章で設定を変更してください。)

■接続の手順

1.設定ユーティリティーの「モニター表示」画面(☞3-2章)を表示させます。

2.[通信設定]タブで、下記の設定をしてから〈適用(A)〉をクリックします。

■ 接続の手順(つづき)

3.相手のパソコンに暗号化が設定されている場合は、[セキュリティ]タブで相手と同じ鍵(キー)を入力します。
※下記の設定例を参考に設定してください。

〈ご参考に〉

起動時、[SSID]が空白(出荷時の設定：何も設定されていない)の場合は、「アドホック」モードに設定されている通信環境の良い方のパソコンに接続されます。

5

5-5.Windows 2000/Me/98 SEで通信をする(つづき)

■接続の手順(つづき)

4.[通信状況]タブをクリックして、通信状態を確認します。

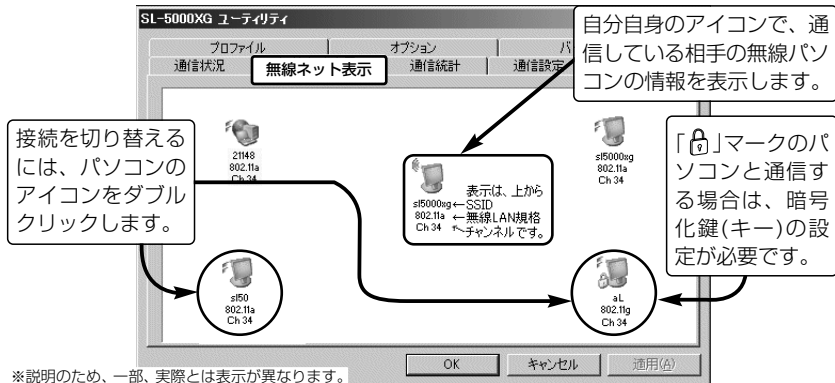
※「アドホック」モードの場合、相手との通信確認は、Pingコマンドで確認(☞6-4章)してください。

■ **次回起動時の接続について**

本製品に設定された[SSID](例：sl5000xg)と同じパソコンに接続を優先します。
なお、暗号化を本製品に設定している場合は、同じ鍵(キー)を持つパソコンの中で通信環境の良い方に接続します。

■ **通信相手を切り替えるには**

[無線ネット表示]タブに表示された別の無線パソコン(例：sl50)をダブルクリックします。
※暗号化キーが異なる無線パソコンには切り替えできません。

※説明のため、一部、実際とは表示が異なります。

6 ご参考に

6-1.本製品の取り外しかた

パソコンを使用中、本製品を取り外す場合の手順について説明します。
取り外す前に、通信相手と送受信中でないことを確認してから下記の操作をしてください。
※Windows XPは、下記の操作は不要ですので、そのまま取り外してください。
※本製品をPCカードスロットに装着しなおすと、再使用できます。

■取り外すときの手順

1.アイコンをクリックします。

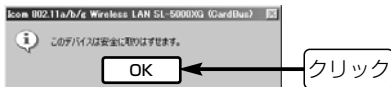
2.「Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5000XG(CardBus)」の表示をクリックします。

[Windows Me/Windows 2000]

[Windows 98 SE]

3.〈OK〉をクリックします。

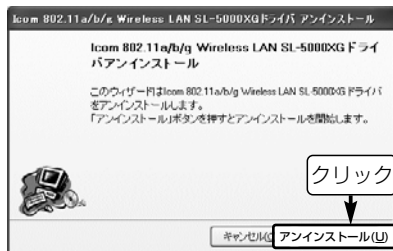
[Windows Me/Windows 2000]

[Windows 98 Second Edition]

6-2.本製品のアンインストール

本製品(ドライバーまたは設定ユーティリティー)をアンインストールする手順について説明します。(※手順は同じため、ドライバーを例に説明します。)
設定ユーティリティーが起動中の場合は、終了してからアンインストールしてください。

■Windows XPの場合

1. マウスを〈スタート〉→[コントロールパネル(C)]の順に操作します。
2. コントロールパネルから、[プログラムの追加と削除]をクリックします。
3. 「Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5000XG Driver」→〈変更と削除〉の順にクリックします。

4. 〈アンインストール(U)〉をクリックして、表示される画面にしたがいます。

5. 本製品がパソコンに装着されている場合は、取り外します。

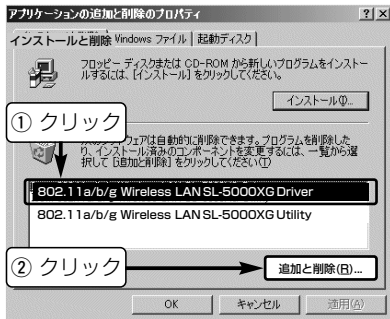
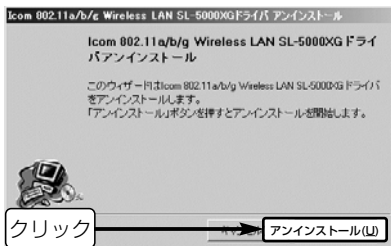
6

6-2.本製品のアンインストール(つづき)

■ **Windows 2000/Me/98 SEの場合**(※Windows Meの画面を例にしています。)

1.本製品を取り外します。

2.マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[コントロールパネル(C)]→[アプリケーションの追加と削除]の順に操作します。

3.「Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5000XG Driver」→〈追加と削除(R)...〉の順にクリックします。

4.〈アンインストール(U)〉をクリックして、表示する画面にしたがいます。

5.本製品をパソコンに装着している場合は、取り外します。

6-3.本製品のインストール状態を確認する

Windows XPを例に、本製品のドライバーが正常にインストールされていることを確認する手順を説明します。

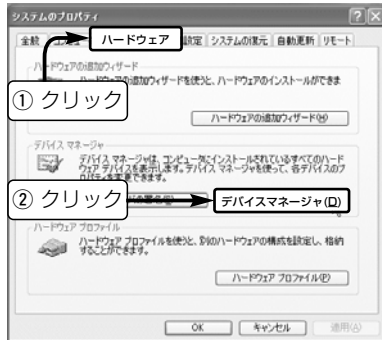
※本製品をパソコンのPCカードスロットに装着した状態で行ってください。

■確認の手順

1. マウスを〈スタート〉→[マイコンピュータ](右クリック)→「プロパティ(R)」の順にクリックします。

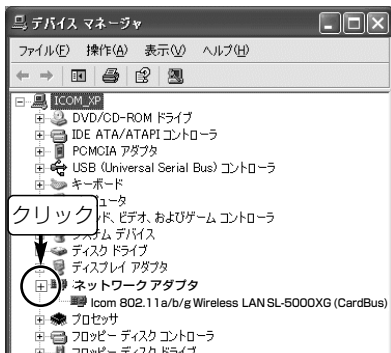
● 「システムのプロパティ」を表示します。

2. [ハードウェア]タブ→〈デバイス マネージャ(D)〉の順にクリックします。

● 「デバイス マネージャ」を表示します。

6-3.本製品のインストール状態を確認する

■確認の手順(つづき)

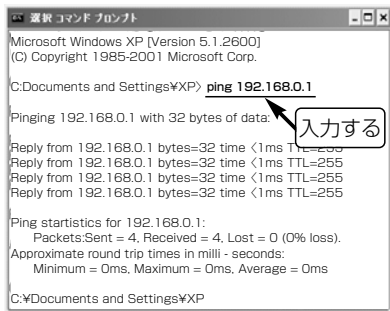
3.「ネットワークアダプタ」の⊞をクリックします。

- 正しくインストールされている場合は、「Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5000XG(CardBus)」を、下記のように表示します。

※左下の画面で「Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5000XG(CardBus)」のアイコンに「!」や「×」マークがついていたり、「？その他のデバイス」という項目に「Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5000XG(CardBus)」が表示されているときは、ドライバーを再インストールしてください。

【ドライバーの再インストールについて】

再インストールは、PCカードスロットから本製品を取り外して行ってください。

新規インストールの手順(☞2章)にしたがってウィザードを実行すると、途中でアンインストールウィザードを表示します。

アンインストール操作に続き、インストールウィザードでインストールを行ってください。

6-4.Pingコマンドで接続を確認する

IPパケットが通信先に正しく届いているかを、次の操作で確認できます。
Windows XPを例に、以下の操作手順を説明します。

■確認の手順

1. マウスを〈スタート〉→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンド プロンプト]の順に操作します。
2. キーボードからPingコマンドを入力して、[Enter]キーを押します。
   ※「192.168.0.1」を相手先のIPアドレスとすると、下記のようになります。
   ping 192.168.0.1と入力して、[Enter]キーを押します。
3. 接続が正常なときは、右の画面のような結果を表示します。

※画面中に表示される数値については、ご使用のネットワーク環境によって異なります。

6-5.トラブルシューティング

下記のような症状でお困りの場合の対処方法について説明しています。

■ ドライバー/設定ユーティリティーをWindows XP/Windows 2000にインストール、またはアンインストールできない

〈原因〉 OSを管理者(administrator)権限でログオンしていない
〈対策〉 OSを管理者のユーザー名でログオンしなおす

■ 本製品をPCカードスロットに装着してもランプが点灯しない

〈原因〉 PCカードアダプターが機能していない
〈対策〉 PCカードアダプターが正常に動作していることを確認(☞1-3章)する
〈原因〉 本製品のドライバーが正しくインストールされていない
〈対策〉 ドライバーのインストール状態を確認(☞6-3章)する

■ ドライバーが正しくインストールできない

〈原因〉 「Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5000XG(CardBus)」のアイコンに「!」や「×」マークがついていたり、「？その他のデバイス」という項目に「Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5000XG(CardBus)」を表示する(☞6-3章)
〈対策〉 本製品のドライバーを再インストールする(☞2章)

6-5.トラブルシューティング(つづき)

■ 無線アクセスポイントと通信できない

〈原因〉 無線アクセスポイントからパソコンのIPアドレスを取得できていない
〈対策〉 無線アクセスポイントが使用できる状態にして、本製品が装着されたパソコンを再起動する
〈原因〉 無線アクセスポイントのDHCPサーバ機能が無効に設定されている
〈対策〉 無線アクセスポイントのDHCPサーバ機能を有効に設定する
〈原因〉 無線LANカードのIPアドレスを固定に変更している
〈対策〉 無線LANカードのIPアドレスを｢自動的に取得｣に設定する
〈原因〉 本製品が起動したとき、｢アドホック｣モードで通信している
〈対策〉 無線通信モードを｢インフラストラクチャ｣に設定する
〈原因〉 本製品に設定した[SSID]と異なる無線アクセスポイントが存在する
〈対策〉 [SSID]の設定を現状の無線アクセスポイントに変更するか、ワイヤレスネットワーク接続または設定ユーティリティーを使用して接続を切り替える
〈原因〉 802.11bの無線アクセスポイントと通信できない
〈対策〉 設定ユーティリティーで、802.11gの[送信速度]を｢自動/11/5.5/2/1Mbps｣の速度に設定する

6-5.トラブルシューティング

■ 無線アクセスポイントと通信できない(つづき)

〈原因〉 無線アクセスポイント側でMACアドレスセキュリティー(もしくは、MACアドレスフィルター)が設定されている

〈対策〉 無線アクセスポイント側に本製品のMACアドレスを登録する
※本製品のMACアドレスは、設定ユーティリティーの[通信状況]タブに表示されます。

〈原因〉 暗号化鍵(キー)が設定されている

〈対策〉 無線アクセスポイントと同じ暗号化鍵(キー)を本製品に設定する

〈原因〉 無線アクセスポイントと本製品の暗号化認証モードが異なっている

〈対策〉 Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続を設定に使用している場合は、「認証モードについて」(☞4-2章)を参考に、認証モードを「シェアードキー」に変更するか、本製品の「設定ユーティリティー」で設定を変更してみる
※本製品の「設定ユーティリティー」を使用(☞3-3章)して設定すると、無線アクセスポイントの認証モードを自動認識して接続できます。

〈原因〉 無線アクセスポイントと暗号化方式(RC4、OCB AES)および暗号化ビット数の設定が異なっている

〈対策〉 暗号化方式とそのビット数を同じに設定する
※Windows XPで設定できる暗号化方式は、「WEP RC4」だけです。

6-5.トラブルシューティング(つづき)

■ パソコン同士で無線通信できない

〈原因〉 本製品のIPアドレスを「自動的に取得」に設定している
〈対策〉 本製品のIPアドレスを固定(☞5-1章)で割り当てる
〈原因〉 本製品が起動したとき、「インフラストラクチャ」モードで通信している
〈対策〉 無線通信モードを「アドホック」に設定する
〈原因〉 [SSID]の設定が通信するほかのパソコンと異なる
〈対策〉 [SSID]の設定をほかのパソコンと同じに変更する
〈原因〉 802.11bの無線パソコンと通信できない
〈対策〉 設定ユーティリティーで、802.11gの[送信速度]を「自動/11/5.5/2/1Mbps」の速度に設定する
〈原因〉 相手の無線パソコンと暗号化方式(RC4、OCB AES)および暗号化ビット数の設定が異なっている
〈対策〉 暗号化方式とそのビット数を同じに設定する
※Windows XPで設定できる暗号化方式は、「WEP RC4」だけです。

6-6.故障のときは

● **保証書について**

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● **修理を依頼されるとき**

取扱説明書にしたがって、もう一度、本製品とパソコンの設定などを調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。
修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● **アフターサービスについてわからないときは**

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

6-7.定格

■無線部

【5.2GHz帯・54Mbps(IEEE802.11a準拠)】

- 国際規格：IEEE 802.11a準拠
- 国内規格：ARIB STD-T71
- 通信方式：単信方式
- 伝送方式：直交周波数分割多重方式(OFDM)
- 変調方式：OFDM-BPSK、QPSK、16QAM、64QAM
- 使用周波数範囲：5150～5250MHz(5.2GHz帯)
- チャンネル数：全4ch(34ch/38ch/42ch/46ch)
- 通信速度：自動、54/48/36/24/18/12/9/6Mbps
- 最大伝送距離：室内約55m(見通し)
- セキュリティー：OCB AES：128bit
  WEP(RC4)：64bit/128bit/152bit
- グループ通信：SSID(ANY拒否対応)
- アンテナ：ダイバーシティーアンテナ
- 送信出力：10mW/MHz以下
- 受信感度：−65dBm以下(フレームエラーレート=10%)
- 復調方式：OFDM復調

6-7.定格(つづき)

■無線部

【2.4GHz帯・54Mbps(IEEE802.11g準拠)】

- **国際規格**：IEEE 802.11g準拠
- **国内規格**：ARIB STD-T66
- **通信方式**：単信方式
- **電波方式**：直交周波数分割多重方式(OFDM)
- **変調方式**：OFDM-BPSK、QPSK、16QAM、64QAM
- **使用周波数範囲**：2400～2483.5MHz(2.4GHz帯)
- **チャンネル数**：全13ch(1ch～13ch)
- **通信速度**：自動、54/48/36/24/18/12/9/6Mbps
- **最大伝送距離**：オープンスペース55m(見通し)
- **セキュリティー**：OCB AES：128bit
WEP(RC4)：64bit/128bit/152bit
- **グループ通信**：SSID(ANY拒否対応)
- **アンテナ**：ダイバーシティーアンテナ
- **送信出力**：10mW/MHz以下
- **受信感度**：−62dBm以下(フレームエラーレート=10%)
- **復調方式**：OFDM復調

6-7.定格(つづき)

■無線部

【2.4GHz帯・11Mbps(IEEE802.11b準拠)】

- **国際規格**：IEEE 802.11b準拠
- **国内規格**：ARIB STD-T66
- **通信方式**：単信方式
- **電波方式**：直接スペクトラム拡散
- **変調方式**：DBPSK、DQPSK、CCK/バーガー符号
- **使用周波数範囲**：2400～2483.5MHz(2.4GHz帯)
- **チャンネル数**：全13ch(1ch～13ch)
- **通信速度**：自動、11/5.5/2/1Mbps
- **最大伝送距離**：室内約50m(見通し)
オープンスペース150m(見通し)
- **セキュリティー**：OCB AES：128bit
WEP(RC4)：64bit/128bit/152bit
- **グループ通信**：SSID(ANY拒否対応)
- **アンテナ**：ダイバーシティーアンテナ
- **送信出力**：10mW/MHz以下
- **受信感度**：−76dBm以下(フレームエラーレート=8%)
- **復調方式**：デジタル復調(マッチドフィルター方式)

6-7.定格(つづき)

■一般仕様

- ●インターフェイス：CardBus TypeⅡ
- ●入　力　電　圧：DC3.3V±5%
- ●消　費　電　流：400mA(Typ)
- ●使用温度範囲：0～+55℃
- ●保存温度範囲：−20～+65℃(※結露しないこと)
- ●重　　　　　量：約50g(付属品を除く)
- ●対　応　機　種：PC/AT互換機(DOS/V)
- ●外　形　寸　法：121(W)×11.4(H)×54(D)mm(※突起物を除く)
- ●対　応　Ｏ　Ｓ：Windows XP、Windows 2000、Windows Millennium Edition、Windows 98 Second Edition

■暗号化方式対応表

OCB AES	AES		WEP(RC4)		
128bit	128bit	256bit	64bit	128bit	152bit
○	×	×	○	○	○

※ 定格・仕様・外観等は改良のため予告なく変更する場合があります。

※ 伝送距離は、通信速度や環境によって異なります。

高品質がテーマです。

A-6282X-1J-①
Printed in Taiwan

アイコム株式会社

本　　社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	003-0806	札幌市白石区菊水6条2-2-7	TEL 011-820-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	108-0022	東京都港区海岸3-3-18	TEL 03-3455-0331
名古屋営業所	468-0066	名古屋市天白区元八事3-249	TEL 052-832-2525
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。